

さみにふみはさみて、いらなくふるまひて、このおとゝにたてまつるとて、いとたかやかにならして侍りけるに、おとゝふみもえとらずしてわなゝきて、やがてわらひて、けふはすぢなし、右のおとゝにまかせ申とだにいひやり給はざりければ、それにこそすがはらのおとゝの、心のまゝにまつりごち行ひけれ、

腋臭

〔倭名類聚抄病二〕胡臭 病源論云、胡臭和岐久會、人腋下臭如葱豉之氣、又謂之狐臭、如狐狸之氣也、

〔箋注倭名類聚抄病二〕醫心方同訓、按、和岐久會、脇臭之義、萬安方訓、和岐乃加、今俗呼、和岐賀略、○中原

書作、人腋下臭如葱豉之氣者、亦言如狐狸之氣者、故謂之狐臭、山田本、下總本、腋作掖、那波本同、按韻會、腋通作掖、下總本無上也字、那波本同、山田本無謂下之字、

〔伊呂波字類抄人體〕胡臭 ヲキクツ

〔撮壤集下疾〕胡臭ヲキクツ 名、鼻俗字和

〔增補下學集上二〕胡臭ヲキクツ 支體ヲキカ

〔倭訓栞和編二十九〕わきが 胡臭をいふ、腋下の臭き也、和名抄にはわきくそといへり、教坊記の

慍瓶も同じ、

〔醫心方四〕治胡臭方第廿四

病源論云、人腋下臭如葱豉之氣者、亦言如狐狸之氣者、故謂之狐臭也、此皆血氣不和蘊積故也、葛氏方云、人身體及腋下狀如狐狙氣、世謂之胡臭、治之方正、且以小便洗掖下、

〔五體身分集中〕肩臂脇肘分

脇臭治方 此病天性ノ人ハ難治、人ノヲ移リタルハ易治ト云ヘリ、治方正月一日ノ朝、小便ニテ

脇ノ下ヲ洗テ白砂ヲ付ヨ、毎朝三日、

〔瘍科秘録八〕體氣